

後援会だより

鈴鹿市日本共産党後援会 鈴鹿市西条4丁目144
電話 382-5709 FAX 382-7689

鈴鹿市日本共産党後援会ホームページ <http://jcp-suzuka.jimdo.com/> パスワード suzuka2020

巻頭 特集

私は言いたい

明日に希望を

日本では戦争になったら、自衛隊は米軍の指揮のもとで戦う「指揮権」密約が交わされており、また日本国内及びその周辺に米軍を「配備する権利」を約束した日米地位協定「基地権」があります。オスプレー墜落事故や米軍婦女暴行事件が起きても日本は何もできない、米軍占領状態を許した異様な姿です。

一昨年、日本政府は、自衛隊の地域的な縛りを外した安保関連法を強行。然し日本国憲法第九条は厳として自衛隊による海外での武力行使を阻んでいます。

2012年、「個人」より「公益」優先の「国家主権」憲法を草案した政権党は今日、衆・参三分の二以上の議席を確保し、九条明文改憲（或いは九条三項新設）と緊急事態条項加憲を目指しています。もし国民投票で過半数賛成を得れば、政府はいずれ、テロや戦争に備えるとして「緊急事態」を宣言。思うが俚に国民に命令し、「表現の自由」など人権を大きく抑制した監視社会をもたらすでしょう。なお指揮権密約、日米地位協定は存在します



すか、あなた！

いま改憲賛成派も署名運動で国民投票に向けた影響力を盛り立っています。私たちは草の根3千万署名運動で、日本がふたたび「海外で戦争する国」になるのは真っ平御免の思いを精一杯、人々に伝えて対話して行きましょう。その奮闘は九条改憲反対の世論をいや増し、そのうねりは改憲発議ひいては国民投票になっても改憲を許さない一票、一票になるに違いありません。明日の希望を胸に頑張らしましょう。

（東磯山 中山拓治）

一日一軒

11月11日から「3千万署名」と「ヒバクシャ署名」のふたつを持って居住地域で戸別訪問を始めました。

まずは前の家のSさん、OK。奥さんは孫の出産でルスでダメ。次は同級生のNくん。選挙中は「ガンバレよ」なんて言っていたのに、署名はしない主義、見るに見かねて奥さんだけしてくる。次は

民生委員の先輩のKさん宅、奥さんのAさんが署名用紙ごと預かってくれて熟読。息子2人の夫婦と孫たちまでかわいい字が並んでた。（署名のセンターに電話したら、子どもたちでももちろん構わないとのこと。そりゃそうですよね、国民の4分の1の署名を集めるんだし、子どもたちこそ未来の日本を背負うんですもん。）

次は毎朝の散歩で会うオバちゃんや夫婦たち。そんな政治や核兵器の話なんてしたことないけど、初めて署名をしてくださった。暖かい部屋に入れてもらいお茶やお菓子もよばれ、自然薯までもらい、そこにやってきた顔見知りのおばちゃん達も快く署名。

・・・てな感じで現在14日目で計40筆。遅々としているけれど、この「一日一軒」という目標がボクにはちょうどいい。だって、今日ダメでも明日2軒行ったら回復できる。そして、「毎日」というのが怠け者の私にはいい意識付けになっている。（やがて、何人かの人で組を組んでさらに楽しくできる日が来るといいな。）

（石薬師町 萩森繁樹）



政治を変えていく のは私たち

特別寄稿

市民連合すずか 山本あけみ

市民連合すずかは、今年1月「中川正春さん×岡歩美さん新春トーク」を開催しました。中川さんが憲法改悪反対、原発反対、女性の社会進出を考えていることがわかりました。参加者から鋭い質問も出て、いい会になりました。

第二回の中川さんの対談会を考えようと話し合っていると、突然の「森友・加計隠し」解散。選挙、頑張らなきゃと思っていると中川正春さんが「希望の党から出馬」の新聞記事。正春後援会の集いで、「去年、せっかく市民が政治に意見を言うようになったのに、何故こんなことを！」と発言する仲間。直接、本人に手紙を出す仲間。なんとか野党共闘ができるようにと皆走り回りました。市民連合みえ・すずかとしても、夜何度も正春さんとの話し合いをし、最後の夜の話し合いの翌日、正春さんは「無所属で出馬」の記者会見をしてくれました。

忘れられないのは、10月15日、雨の中での弁

天山・正春さん街宣。全員コールの後、多くの参加者が正春さんとしっかりと握手してくれました。じんときました。今後、



11月23日の演説会で
ゲストスピーチする山本さん

政策協定の実現、クオータ制の導入、難民、移民の権利保障など公約に向けた国会での活躍を期待したいと思います。

中川正春さんは、序盤、川崎さんと横一線の闘いからのスタートでした。ひっくりかえし、10%の差をつけて勝利できたのは、野党共闘としての中川正春さんを応援してくださった共産党の方々の大きなちからがありました。自分の利を捨てて、「市民と野党の共闘」に最前線でちからを注いでくださったことに厚く御礼申し上げます。今後、「森友・加計」の真相究明、「安倍9条改憲NO!」の声を共にあげましょう!

日本共産党へのご支援、ご協力ありがとうございました

鈴鹿市日本共産党後援会長 谷口 茂

10月におこなわれました総選挙では日本共産党へのご支援、ご協力をいただきありがとうございました。こんどの選挙で日本共産党は、市民と野党の共闘の勝利と共産党の躍進という二つの目標をかかげてたたかってきました。

共産党の議席は21議席から12議席へと残念ながら後退しました。この結果から教訓を引き出し、次の選挙では必ず、前進ができるようわたしたち後援会もがんばります。

野党共闘という点では民進党が希望の党へ合流するという逆流のなか、市民と野党の共闘を追求してがんばり、全国で32の選挙区で野党統一候補が勝利、三重2区では中川正春氏を当選させることができました。

こんどの選挙では市民と野党の共闘勢力の一本化のため、共産党は多くの選挙区(67)で候補者を

降ろす決断をしました。こうした対応について「身をていして逆流を止め、民主主義を守った」と評価する声がよく聞かれているのはうれしいことであり、今後の共闘や共産党の前進につながってくればと思います。

選挙後、安倍政権は憲法9条の改定を本格化させようとしています。平和憲法の改悪を許さず、住みよい社会をめざす取り組みに向け後援会も一層がんばります。ひきつづきみなさんのご支援よろしくおねがいします。



どうする？どうなる？

日本の政治

11月23日、鈴鹿市文化会館で、日本共産党市政報告会「どうする？どうなる？日本の政治 日本共産党に聞く会」が開催され、100名近くの参加がありました。

石田秀三市議の市政報告、市民連合すずかの山本あけみさんのゲストスピーチに続いて参議院国対委員長井上さんと皆さんが講演をしました。

井上さんは突然の衆院解散、希望の党の出現、民進党の合流という事態の中で迎えた選挙を「分断・逆流の中でたたかっていた激動の3週間だった」とふり返りました。共産党が21議席から12議席に後退したことについては、「前回の選挙では実力以上の議席を獲得した。議席に見合う実力をつけようとしてきたがでしななかった。これが今回の敗因」と分析。し



かし立憲政党が38↓69に増え、中でも立憲民主党が54議席を獲得して野党第一党になったことの意味を強調しました。小池氏・前原氏らによる共闘破壊の策動があっても、共

産党が野党共闘の路線を貫いたこと、立憲民主党ができたその日に、枝野氏の選挙区で共産党は候補をおろし、メールを送ったこと、小池・前原の秘密会談ですでに「改憲派は排除」の方針は決まっていたことなどを、詳しく語りました。

自公勢力は大勝したが、「安倍政府に期待しない」が51%もあるという世論調査結果を紹介しながら、モリ・カケ、北朝鮮、核兵器廃止、介護保険制度など当面する政治課題について共産党の方針を語りました。

会場から質問のあった政党助成金問題では、「金があるから安心して公約破りができるのです。政党の墮落にしかありません」と、その問題点を指摘しました。

焦眉の憲法改正問題では、NHKの世論調査で2002年と2017年を比較し、「9条改正必要」が30%↓25%、「9条改正必要ない」が52%↓57%になったことを紹介。年別に見ても20代で「9条改正必要ない」が圧倒的に多いと述べました。一方で「若者に自民党支持が多いのはなぜ？」という会場からの質問に対しては「政治と言えば安倍さんと自民党しか知らない」と今の若者の特徴にふれ、多様な方法で共産党を理解してもらうことの必要性を述べました。

多くの方の参加で和やかな集いになりました。受付にいた橋詰さんは「隣の大ホールに来ていた若いお母さんが『子育てするようになって政治も考えるようになった』とずっと聞いてくれた。うれしかった。」と語っていました。

(吉田)

共産党に聞いてみた

三重・鈴鹿 井上議員ら語る



井上参院議員（正面）の語りに聞き入る参加者＝23日、三重県鈴鹿市

三重県の日本共産党鈴鹿市委員会では23日、市内で「どうなる？どうする？日本の政治、共産党に聞く会」と題して演説会を開きました。市民連合すずか代表の山本あけみさん、日本共産党の井上正三参院議員、中野武中副委員長、石田秀三市議が弁士として参加。井上氏は総選挙を振

り返り、日本共産党の後退は残念だが、市民連合の共闘を壊す逆流と断固たたい、共闘をあきらめない共産党のメッセージが大きな力になり共闘を再建し、結果として国会で重要な足場をつくり、未来を開いたと強調。その上で「どんな難しい状況になってもこの道を進めていくのが私たちの決意。次は共闘に答えました。

鈴鹿市での演説会を伝える「しんぶん赤旗」11月25日

政治革新の道しるべ、真実つたえ希望はこぼ

しんぶん赤旗

日刊●月 3497円
日曜版●月 823円



山本氏は、総選挙の三重2区で、野党共闘を成功させた取り組みを語り、その中で「野党共闘が大事だとして、当選させようと共産党の人たちは頑張ってもらった」と語り大きな拍手が起りました。

参加した女性64は「選挙の後、落ち込んだが、市民と野党の共闘を壊す逆流を共産党が止めた」と話に元気をもらった。若い人に賞の姿を伝えたい」と語りました。



はしづめ圭一の

はじめの一步

秋の夜に思うこと

秋にはスポーツの秋、行楽の秋、読書の秋、芸術の秋、食欲の秋といった、いろいろな言葉があります。四季の移りかわりのなかで、過ごしやすい気温、おいしい食べ物など、最適な環境から「〇〇の秋」と様々な表現をされるようになったと言われています。あなたにとっての秋は何でしょうか？

鈴鹿市の秋は、公民館講座の発表・展示会や文化会館での文化行事、小学校区や市全体でのスポーツ行事、また各地域での秋祭りや伝統行事など、多くの市民が参加する文化、スポーツ行事などが多彩に行われます。私もこの秋、スタッフとして参加したり、一市民として鑑賞したりして、楽しむことができました。



11月19日(日)「鈴鹿の街音楽祭2017」
鈴鹿市文化会館けやきホール

こうした行事に参加するにつれて、鈴鹿市民の文化レベルは高いんだなあと、たびたび感じます。

そして、もうひとつ思うのは、各地域で様々な行事があっても広い鈴鹿市ですから、市民みんなの一体感を感じるもの、鈴鹿市の自慢になるものがないことですね。

広い鈴鹿市内を結び、市民の自慢になるもの…市内隅々を走り市内のどこにでもいける…そんなコミュニティバスができるといいですね。市民の一体感が一気にアップすると思います。

(鈴鹿市議会議員 橋詰圭一)

東北の復興は、まだ道半ば

11月初旬、総選挙が終わって落ち着いたところで、「結婚40周年記念」と称して2泊3日の旅に出かけました。行先は東北の仙台～気仙沼～平泉など、レンタカーで回りました。いい天気で、海から山の景色、早めの紅葉、そしておいしくて値打ちなカキやアワビ、牛タンや蕎麦なども味わい、いい骨休みになりました。

旅の途中、気になっていた場所にも立ち寄りしました。それは6年前、震災・津波の救援ボランティア



石田 秀三の

かけある記

活動をした海辺の亘理(わたり)町。大津波で壊れた海岸堤防はきれいに復旧されていましたが、中の農地や道路はまだこれからという段階です。日本三景・松島も観光地側はにぎやかですが、反対側の海岸はこれも工事中。気仙沼の港は、これから5mの防潮壁の工事が始まるところで、鉄道は元通りにはつながらず、総じて復旧の遅れが感じられました。

6年も経ってこの状態というのは、まったく政治の責任です。口で「東北の復興」を言うだけで実行が伴わないアベ政治こそ、「国難」と言わねばなりません。

楽しみながらも、いろいろ考えさせられた旅でした。

(鈴鹿市議会議員 石田秀三)



復旧した海岸堤防
(亘理町)



森川ヤスエの

こころに夢を

迷彩服と 迷彩柄のファッション

私は迷彩服の集団を見ると「ドキッ」とする。それは災害救助活動をしている姿を見ても同じ。自衛隊も災害救助用の服は迷彩服ではなく、救助のための服を作ってほしいと思う。

迷彩服や迷彩戦闘用のヘリや飛行機では、戦闘地域での活動のような錯覚を覚えてしまうからです。

そんな私は、ファッションとしての迷彩柄も、見ると一瞬「ドキッ」と鼓動が激しくなる。

そんな私は少し「こだわりが強い」人間なんだな

あと思いながら、自分という人間はどうしてこうも人と違うのだろうか、思いめぐらすことたびたび。

特に迷彩柄のファッションにだけは、なぜかなじめない。出会うたびに「ドキッ」と鼓動が高まる。そして少し憂鬱になる。

安倍自公政権の改憲欲求の大元である自衛隊の姿は「迷彩服の似合う戦闘地域での自衛隊」だと思つと、なおさら迷彩服を連想させる迷彩柄ファッションはなくなってほしい。

(鈴鹿市議会議員 森川ヤスエ)



鈴鹿市日本共産党後援会 秋のバス旅行

共産党鈴鹿市後援会は11月26日、恒例の日帰り旅行を計画しました。春と秋、合わせて20回目となる節目のこの日、バス2台(90名)を連れ、いざ出発。お天気にも恵まれ、後援会員の交流と親睦を深めました。

この日訪ねたのは、岐阜県多治見市の名刹、永保寺や銘菓「栗きんとん」の老舗川上屋、そして、昔なつかしいタイル産業の伝統が息づく

「タイル博物館」では鮮やかなタイルアートに魅せられました。このうち川上屋さんでは、地元産品を販売するイベントを開催中でもあり、おおぜいの観光客でにぎわっていました。わたしたちもおいしそうな栗きんとんや栗菓子のショッピングを楽しみました。参加した後援会員からは「もみじもきれいで楽しかったねえ」「今度はどこに行くのかしら」などの声も聞かれました。後援会ではみんなが気軽に楽しめるバスハイクをこれからも続けたいと考えています。

(後援会事務局 Sさん)



私のおすすめ 簡単レシピ -さばの昆布巻- 野崎洋子



(材料)

さば 骨抜きフィレを2枚
 早煮昆布 15cmの長さのを
 12~15枚
 水 3カップ
 しょうゆ 大さじ3~4
 (味はお好みで)
 砂糖 大さじ2~3
 (味はお好みで)
 酢 大さじ1
 みりん 大さじ1
 かんぴょう

(作り方)

①骨抜きのサバを2cm幅の切り身にします。
 ②早煮昆布はさっと水にくぐらせ、

しんなりさせます。
 ③かんぴょうは昆布巻の数だけ、15~20cmのものを水で戻します。
 ④昆布にサバの切り身をのせ、くると巻いてかんぴょうで縛ります。
 ⑤鍋に昆布巻を並べ、水その他の調味料を入れて煮ます。
 煮汁がなくなるまで弱火で煮れば出来上がり。

(中に入れる具はサバの他にたらこ、鮭、または豚の薄切り肉など工夫なさってください。昆布だけでもおいしいですよ。)

絵手紙

伊藤多江子さん



私のふるさと

第11回



私の故郷は、静岡県浜松市です。最近では、NHK女城主直虎で脚光をあびました。

楽器と繊維の町として栄え、働く女性が多かったせいか、「かかあ天下と からっかぜ(遠州の強い風)」で有名です。

生まれ育ったところは、市の中心から車で10分の静かな住宅街で、自然には恵まれていません。そのためか母の実家 袋井市の自然風景が心に残っています。毎年5月の連休に、田舎へ行き 車窓か

ら、連綿と続く れんげ畑に心を奪われていました。

夏には、遠州灘の海で遊ぶのが楽しみでした。波が荒く、遊泳は禁じられていたので波打ち際で遊びました。遠州灘の砂浜は白く美しく、白子の海を初めて見た時は 随分黒い砂浜だなあと思いました。

浜松といえば 5月3~5日の浜松祭りも知られています。中田島砂丘で、豊何豊もの大きな凧揚げ合戦が行われ、夜には絢爛豪華な御殿屋台が市内を周回します。昼間は いなせな若者が元気よく、ラッパの音と共に「練り」をし、夜は子どもたちが御殿屋台に乗って、笛や太鼓を奏で幻想的な雰囲気を作ります。5月になると「浜松っ子」達は、熱に浮かされるのです。みなさまも ぜひ一度は、ご覧になって下さい。

(道家 志真子)

出口調査によると10代・20代の若者の何と40%が自民党に投票しているそうです。どの世代よりも多い。▼ちなみに60代で自民党に投票した人は33%です。この数字を見ると「若者は自民党支持者が多い」と言うことになります。▼しかしNHKが調べた若者の自民党支持率はわずか20%でどの世代よりも少ない。このギャップはなぜ?▼私が思うに、自民党を支持しない子たちが選挙に行かないからです。▼選挙に行く子⇒真面目な子⇒体制支持タイプ 選挙に行かない子⇒普通の子⇒政治に無関心、そんな図式が見えてきます。▼圧倒的多数の「普通の子」に、「選挙ってオモシロそう」と思わせる演出ができれば、逆転できます。▼モリ・カケ問題は政治のゆがみを意識化する絶好の機会でした。白子駅前で行った街頭シール投票で、若者は「疑惑は解明されていない」にどんどんシールを貼っていききました。▼若者の気持ちをつかむことができれば、必ず逆転できます。どうやるか、それを真剣に考える時です。

(よ)

編集後記